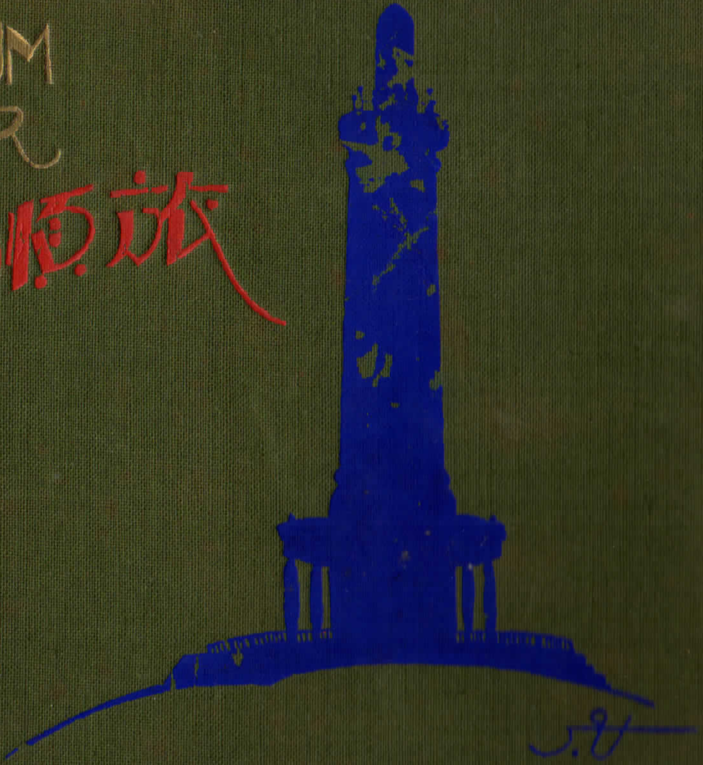
# MEMORABLE ALBUM OF PORT ARTHUR

# 旅順の戰蹟



# 旅順の戰蹟

—— 旅順要塞司令部許可濟 ——

# （は）（し）（が）（き）

旅順は東洋の名蹟、否世界の名蹟である!!
想ひ起す明治三十七年、日露両國は國交斷絶して果然滿鮮の野に兵馬戰塵をあげ、山川草木轉荒凉たる光景を現出するに至つた。

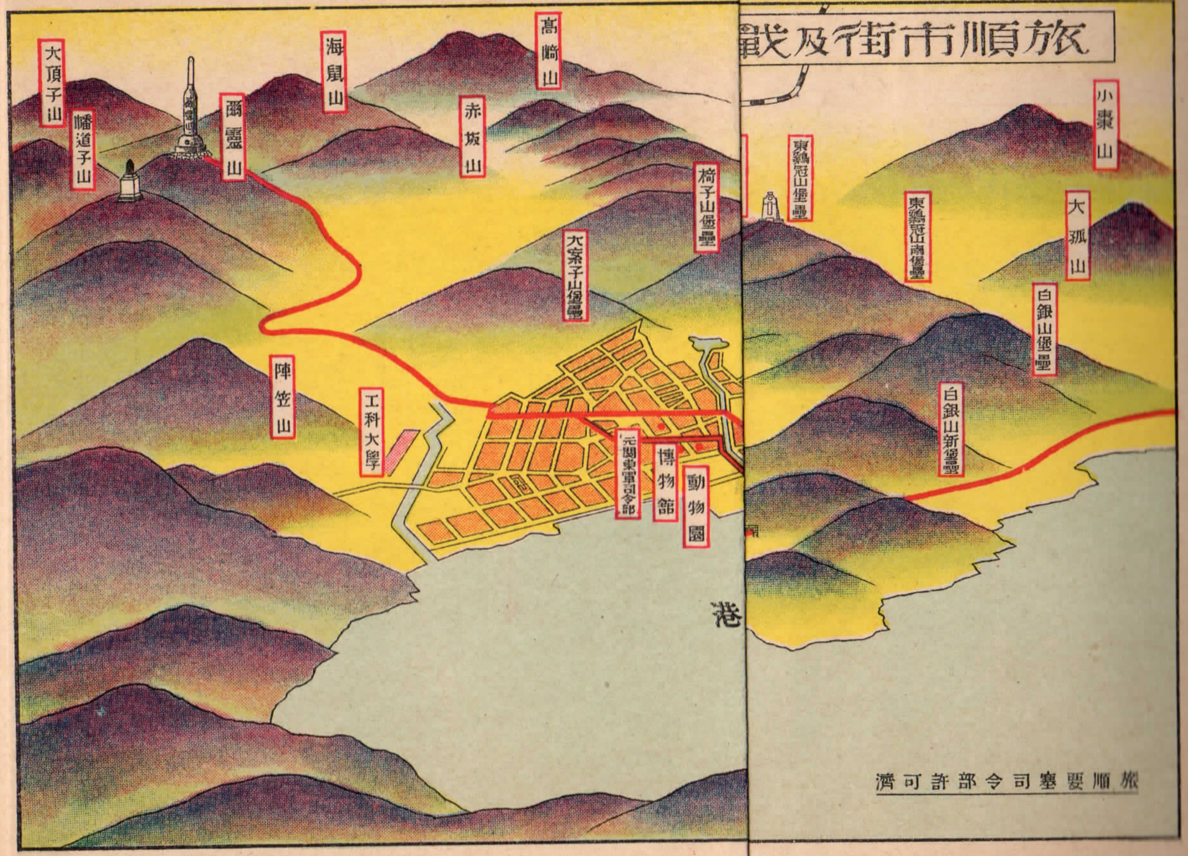
旅順は流石に露國が金城鐵壁を以つて世界に誇つた堅壘であつた。之に對し決死の意氣を以つて攻擊の任に當つたもの、陸には誠忠義烈の乃木大將麾下の第三軍あり、海には沈勇豪膽の東郷大將指揮の聯合艦隊あり。何れも明治大帝の大詔に勇躍して激戰力闘すること六閲月、忠勇の將士六萬の犧牲を敢てして明治三十八年一月二日竟によく敵の艦隊を全滅に歸せしめ、敵將をして刀折れ計盡き終に降を我が軍門に請ひ、開城の已むなきに到らしめた。世界戰史に苦戰を傳ふるもの決して尠くはないが此の旅順攻圍戰の如く激烈慘憺たる光景を呈したものは外に無い。

旅順の山河は我等日東帝國民にとつては永遠に忘るゝ能はざる處であると同時に、また永遠に世界に誇るべき名譽の戰蹟である。

旅順の山川は斯の如く記念すべき實に尊き戰蹟であると同時に、他面又誠に捨て難き風光の勝地である。春花秋月四季に應じて移り變る自然の變化は此處ならでは見られぬ美しさである。

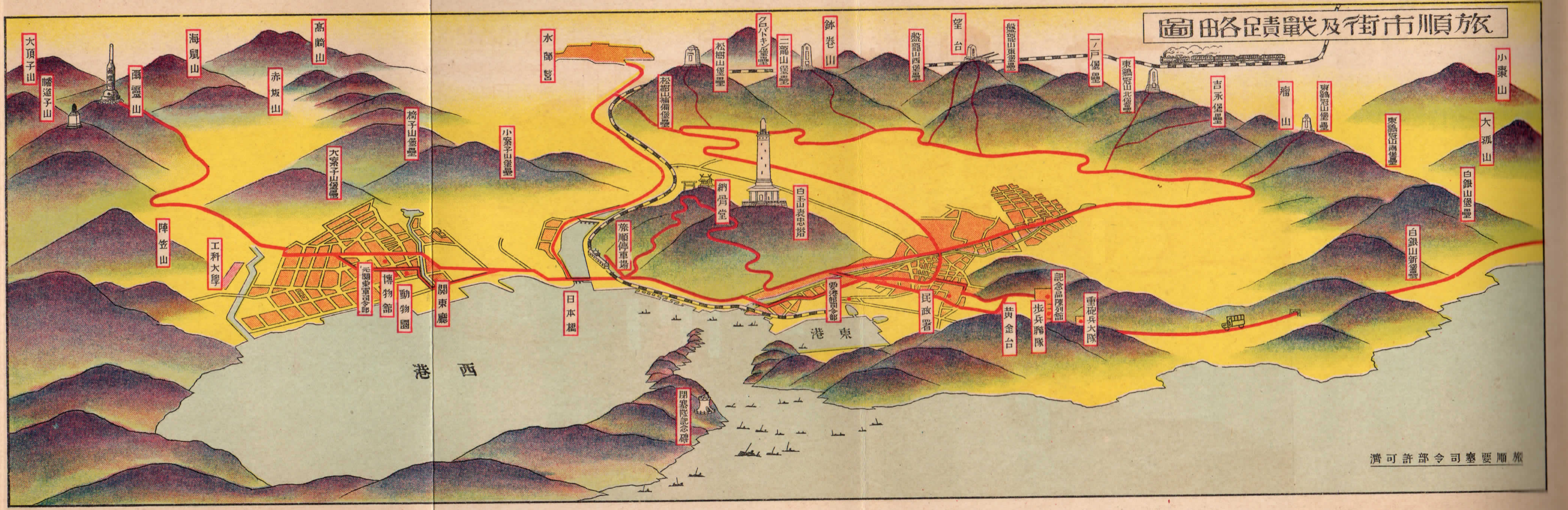
本寫眞帖は主として往時の戰蹟の眞景を輯錄し、一は當時惡戰奮闘の勇士が忠烈の跡を偲び、一は我が陸海軍の赫々たる榮光を後昆に傳へんと欲するものである。

庶幾くは旅順に遊び旅順を愛し旅順を懐ふの士は勿論苟も皇國の隆昌を念とせらるゝの士は必ず一本を座右に備へ賜はらんことを。




# 目次

東郷乃木両將軍の會見……一
白玉山表忠塔……二
表忠塔下に立ちて……三
白玉山納骨祠……四
納骨祠前より表忠塔を望む……五
閉塞隊假埋葬地……六
舊市街俯瞰……七
戰利品陳列館……八
東鷄冠山砲臺……九
東鷄冠山北堡壘…（一）……一〇
東鷄冠山北堡壘…（二）……一一
東鷄冠山北堡壘…（三）……一二
東鷄冠山北堡壘…（四）……一三
東鷄冠山北堡壘…（五）……一四
東鷄冠山北堡壘…（六）……一五
望臺砲臺……一六
二龍山堡壘…（一）……一七
二龍山堡壘…（二）……一八
二龍山堡壘…（三）……一九
松樹山堡壘…（一）……二〇
松樹山堡壘…（二）……二一
爾靈山…（一）……二二
爾靈山…（二）……二三
爾靈山…（三）……二四
山本乃木両氏戰死處……二五
爾靈山背面……二六
大案子山堡壘…（一）……二七
大案子山堡壘…（二）……二八
椅子山堡壘…（一）……二九
椅子山堡壘…（二）……三〇
露將ステッセルとその幕僚……三一
水師營會見所……三二
水師營會見室……三三
水師營會見記念……三四
火石嶺子海軍陸戰隊陣地……三五
港口閉塞隊記念碑……三六
關東廳……三七
元關東軍司令部……三八
白玉山頂の美觀……三九
新市街全景……四〇
重砲兵大隊及歩兵聯隊……四一
新市街後樂園と大正公園の櫻……四二
旅順博物館……四三
旅順工科大學……四四
旅順高等公學校と旅順中學校及旅順高等女學校……四五
旅順民政署及旅順海軍要港部司令部……四六
旅順偕行社と松村町通り……四七
旅順公會堂……四八
青葉町通り……四九
旅順大和ホテル及關東廳病院……五〇
露國戰死者墓地……五一
旅順驛前の景觀……五二


旅順市街及戰蹟略圖
大頂子山
幡道子山
爾靈山
海鼠山
高崎山
赤坂山
椅子山堡壘
大案子山堡壘
小案子山堡壘
陣笠山
工科大學
元關東軍司令部
博物館
動物園
關東廳
西港
水師營
松樹山補備堡壘
松樹山堡壘
クロパトキン堡壘
二龍山堡壘
鉢巻山
盤龍山西堡壘
望台
盤龍山東堡壘
一ノ戸堡壘
東鷄冠山北堡壘
吉永堡壘
瘤山
東鷄冠山堡壘
東鷄冠山南堡壘
小東山
大孤山
白銀山堡壘
白銀山新堡壘
納骨堂
白玉山表忠塔
旅順停車場
日本橋
要港部司令部
東港
民政署
記念品陳列館
黄金台
歩兵聯隊
重砲兵大隊
閉塞隊記念碑
旅順要塞司令部許可濟

東郷乃木両將軍の會見

明治三十七年十二月二十日聯合艦隊司令長官東郷大將は柳樹房の陸軍本營に乃木第三軍司令官を訪問されたる際の記念、後方の藁屋は、伏見桃山の乃木神社に移轉して居る。

〔2〕

白玉山表忠塔

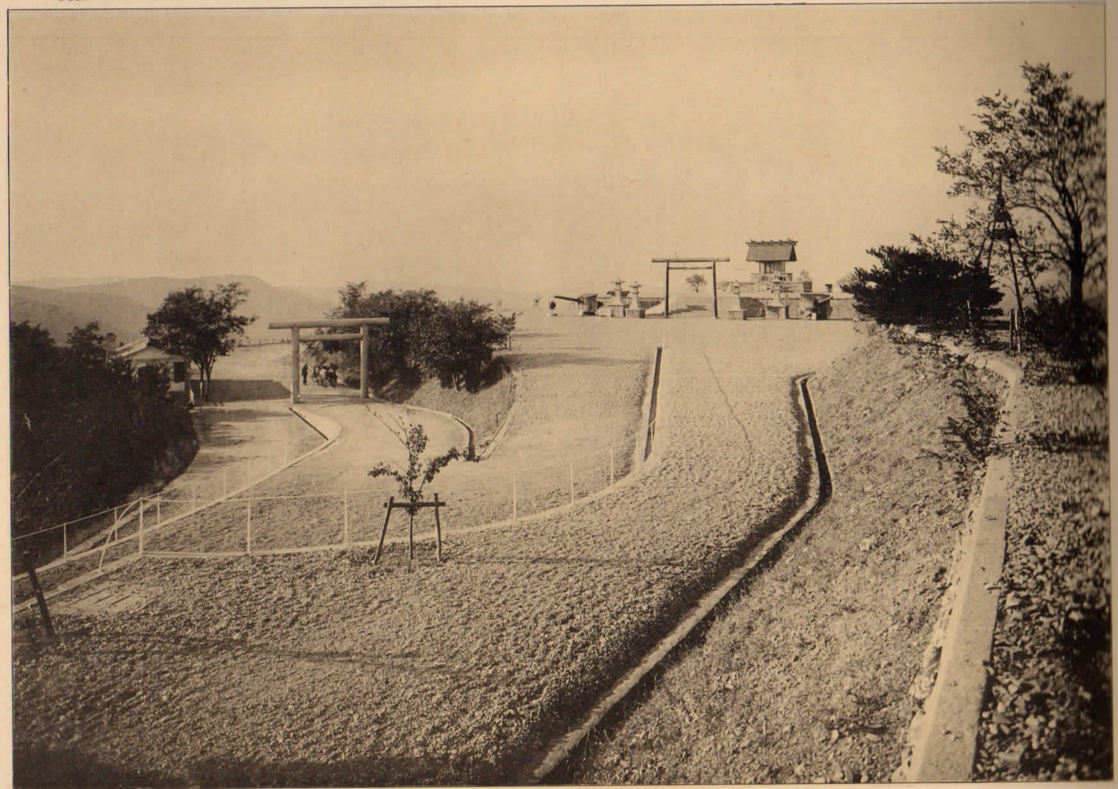
旅順攻圍戰中の戰病歿勇士二万七百名の英靈な慰めその遺烈な千載に傳へん爲め乃木
東鄕両大將が企畫せられ二ヶ年の日子な費し竣工したもの、塔の高さ八十五メートル。

THE VIEW AT THE FOOT OF THE TOWER.

〔3〕

表忠塔下に立ちて

表忠塔は誠に大和民族の名譽を長へに刻める碑である、今塔下に立ちて英魂を慰藉し往年の屍山血河の慘憺たる光景を偲ぶ時、そゞろ一掬の涙無からんやである。



白玉山納骨祠

旅順攻圍戰殉國の英靈を慰めんが爲めに白玉山上に建てられたもので祠の下部には
約二万七百勇士の遺骨を安置して居る。祭典は毎年六月八日いさ盛大に執行される。

納骨祠前より表忠塔を望む

納骨祠前から山巓の表忠塔を望んだ光景である。塔は乃木東郷両將軍の企劃により建立せられたもので高さ二百十八尺、英靈の遺烈は千載に光輝を放つてゐる。

THE GRAVE OF NAVAL ROYAL DEAD.

〔6〕

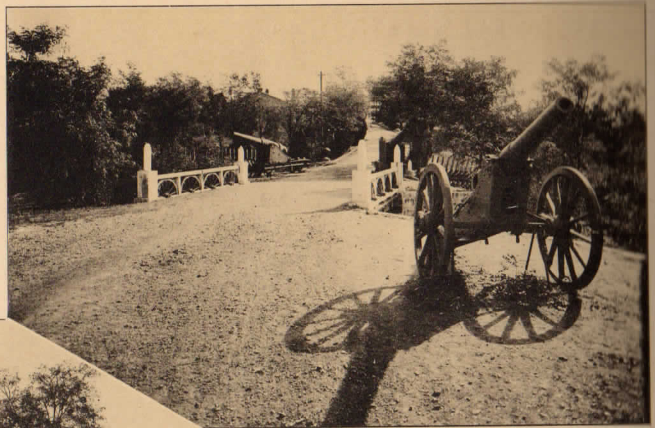
閉塞隊假埋葬地

旅順驛前白玉山麓にある。明治三十七八年戰役の際、決死隊を以て旅順港口閉塞の目的を達し、敵彈の爲めに名譽の戰死を遂げたる、沈沒將士の假埋葬地である。

〔7〕

舊市街俯瞰

白玉山上より眼下に旅順舊市街を俯瞰した光景である。小流教場溝を挾んで人家櫛比し、商舖軒を列ね、又關東廳を始め陸海軍諸官衙の所在地として穩健なる發達を期しつゝあり。



戰利品陳列館

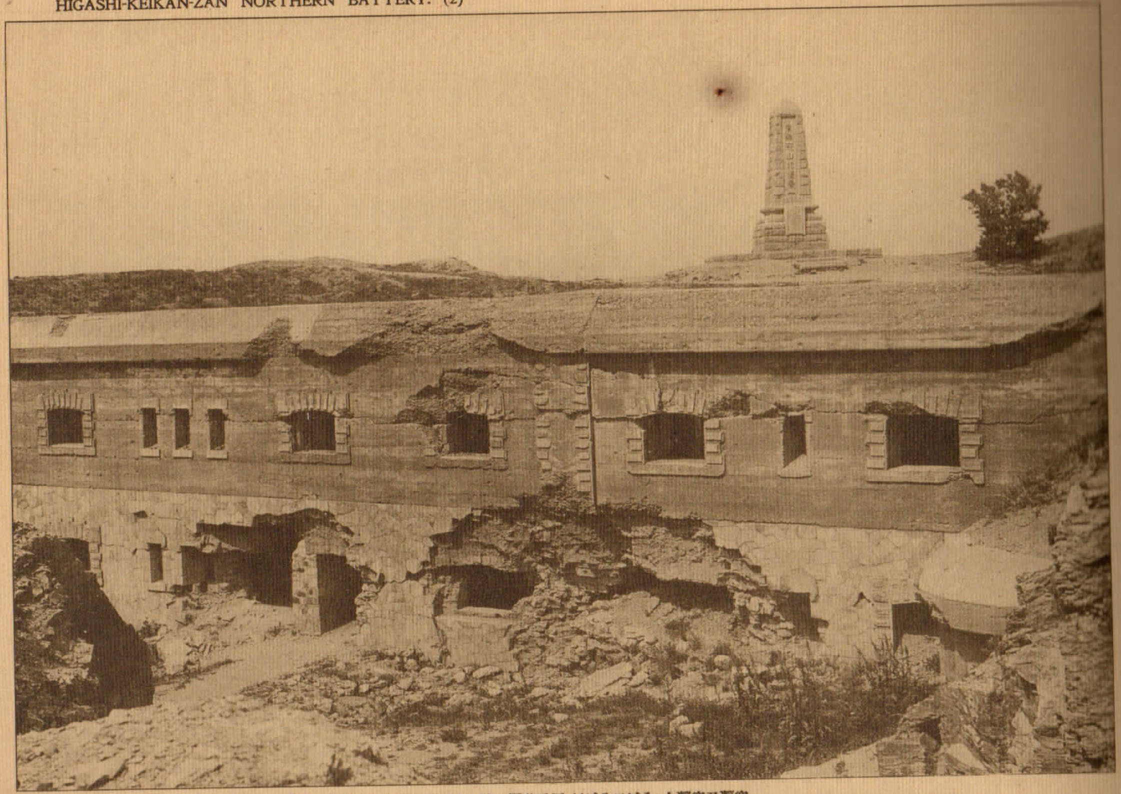
館內に敵軍の兵器彈藥器具堡壘砲臺の模型其他二千五百餘点の戰利品を陳列し屋外には敵軍使用の大小四十門の砲身が横つてゐる。建物は元の露軍將校集會所である。

東雞冠山砲臺

明治三十七年十月三十日第一師團步兵第十聯隊の突擊隊が全滅の慘苦を甞めた處。
而も我軍不屈の突擊に敵も遂に支へ兼ね隊長ワフネフ大尉自ら爆破して退却した。

東雞冠山北堡壘（一）

旅順要塞の東北正面にある最も堅固な永久堡壘で、我が軍は二百十餘日間有ゆる苦心と多大な犠牲を拂ひ明治三十七年十二月十八日遂に胸墻爆破に依り占領したもの。



東雞冠山北堡壘（二）

突撃又突撃！全滅又全滅!!悪戰苦鬪の跡。明治三十七年十二月十八日夜半に占領した堡壘である。寫眞は西側の掩蔽部で壞れた箇所は皆彈痕である。其慘狀を語りて餘りあり。

東雞冠山北堡壘（三）

旅順攻圍軍の苦戰地、難攻不落金城と誇りし此の堡壘も我猛烈なる砲火により無慘の殘骸となり、露軍の勇將『コンドラチエンコ少將』等も悲壯なる最後を遂げたる處である。

東鷄冠山北堡壘（四）

我軍は幾多の犧牲を拂ひ其の攻城に、作戰に多大の苦心を費し而も尚旬月に亘りし程、實に世界に誇りしものゝ一つで其の堅牢周密巧妙な極めしこと到底想像外である、圖は内部の撮影である。

東雞冠山北堡壘（五）

此堡壘は攻圍軍苦戰の跡であるが寫眞は咽喉部より記念碑を望んだ光景で、元は碑の位置に八珊七の野砲が六門あつた。小い碑はコンドラチエンコ少將戰死の場所である。

HIGASHI-KEIKAN-ZAN NORTHERN BATTERY. (6)

〔15〕

東雞冠山北堡壘（六）

此の圖内の彈痕は當時の慘憺たる激戰の跡を如實に物語るものである、明治三十七年十一月二十一日小野工兵伍長以下九名の勇士が奮戰武勳を建てたものも此の堡壘である。

〔16〕 望臺砲臺

望臺は東北正面中の最高山で敵は此處に遠距離射撃の出來る加農砲を据付けて我軍の展開を妨害したが、明治三十七年八月十九日の我總攻撃の爲に瞬時に撃破された。

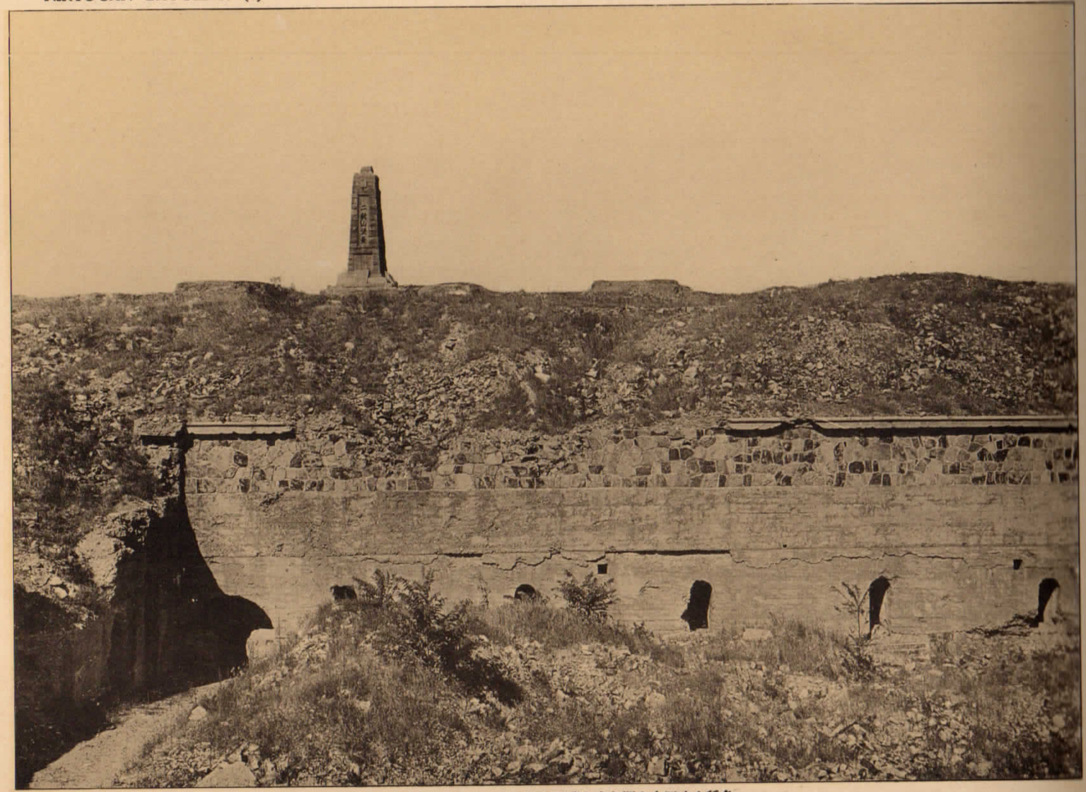
〔17〕

二龍山堡壘（一）

碑の建つて居る箇所は重砲線で、ペトンの破壊は悉く我が軍の砲撃の結果である。
明治三十七年十二月二十八日我が第九師團が胸墻を爆破して遂に占領したものである。

二龍山堡壘（二）

二龍山堡壘は乃木軍の從隊なる金澤師團が日夜二ヶ月間、苦戰作業を繼續し、明治三十七年十二月二十八日を以て其堡壘を爆發すると同時に、之を占領したものである。



〔19〕

二龍山堡壘（三）

各種大砲四十七門を有し背面防禦中最も大なる堡壘であつたが、明治三十七年十二月二十八日我軍之を破壊し加ふるに猛烈なる攻撃を決行し終に翌日完全に占領したものである。

松樹山堡壘（一）

我が第一師團はカポニエル（前面の壊れた所）を基点として胸墻に三條の坑道を掘り、約一千貫の爆藥を塡充し明治三十七年十二月三十一日爆破占領した處である。

松樹山堡塁（二）

惨憺たる奮闘数回の後明治三十七年十二月三十一日、第一師団第一大隊の奮闘により、門牆の爆破遂に効を奏し占領したる堡塁である。

爾靈山 (一)

碑名は故陸軍大將乃木希典閣下の筆跡になり明治四十五年の建立に係り
永遠に戰役當時を偲ばしむる好記念碑である。

爾　靈　山　(二)

標高二〇三米な其儘高地名としたもの、乃木將軍の詩により爾靈山と書くに至つた。爾靈山嶮豈難攀　男子功名期克難　鐵血覆山山形改　萬人齊仰爾靈山

〔24〕

爆薬戦！投石戦！突貫！格闘！全山死屍を以て覆はれ逆襲又襲撃遂に我軍の有に歸
するや直ちに頂上に觀測所を設け港内碇泊中の露艦を撃沈し降を請ふに至らしめた。

爾　靈　山（三）

THE SPOTS WHERE MAJOR-GENERAL YAMAMOTO
AND SECOND-LIUTENANT NOGI FELL.

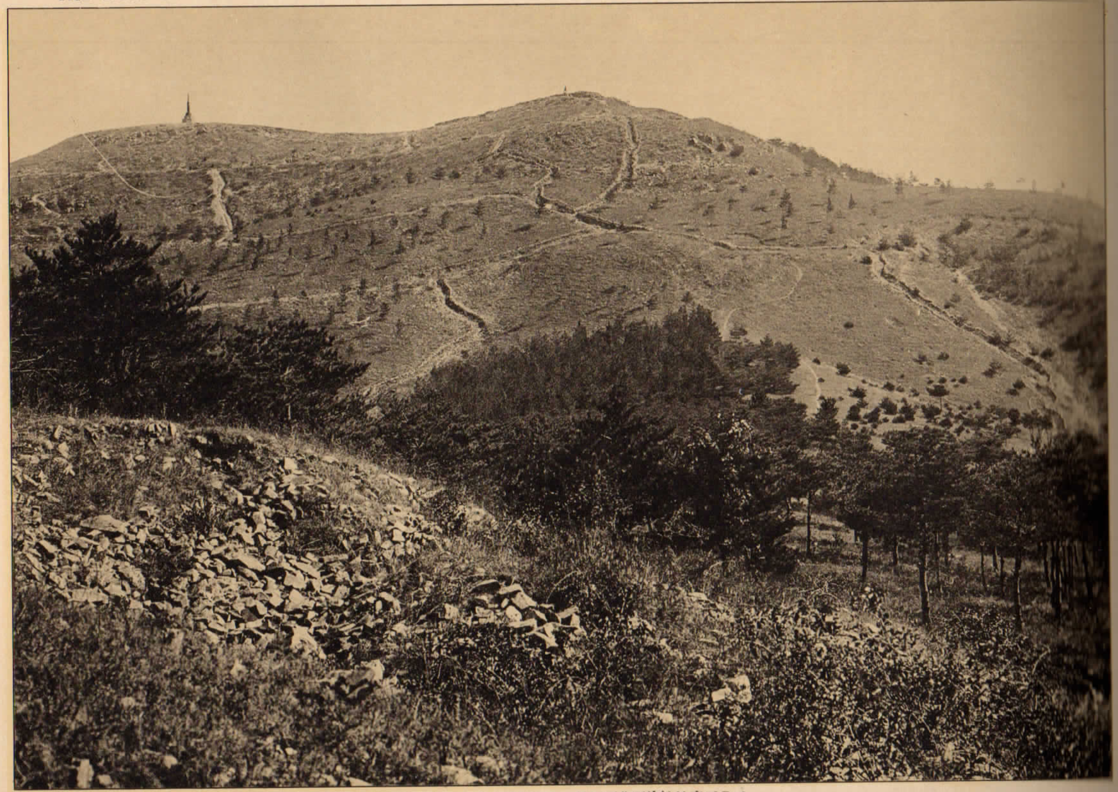
**乃木少尉戰死處**

二〇三高地の占領は旅順陷落の致命であつたことは萬人の認める所で、其惡戰苦闘肉彈壯烈凄慘は有史以來の慘事とすべく、岡の碑は乃木保典君の戰死せられた所。

**山本少將戰死處**

明治三十七年九月二十四日我軍ナマコ山を占領するや、午後三時四十分頃陸軍少將山本は寺田聯隊長其他を從へ敵狀偵察中、敵の一齊射擊を受け終に戰死せられた所。

THE BACK OF NIREI-SAN HILL.





**爾靈山背面**

二〇三高地は旅順背面中第一位の標高を有し、彼此作戰要衝の陣地である。露軍は極めて堅固なる臨時防備を盡し全力を集注之を守護して我軍に多大の犠牲を拂はしめた。

〔27〕

大案子山堡壘（一）

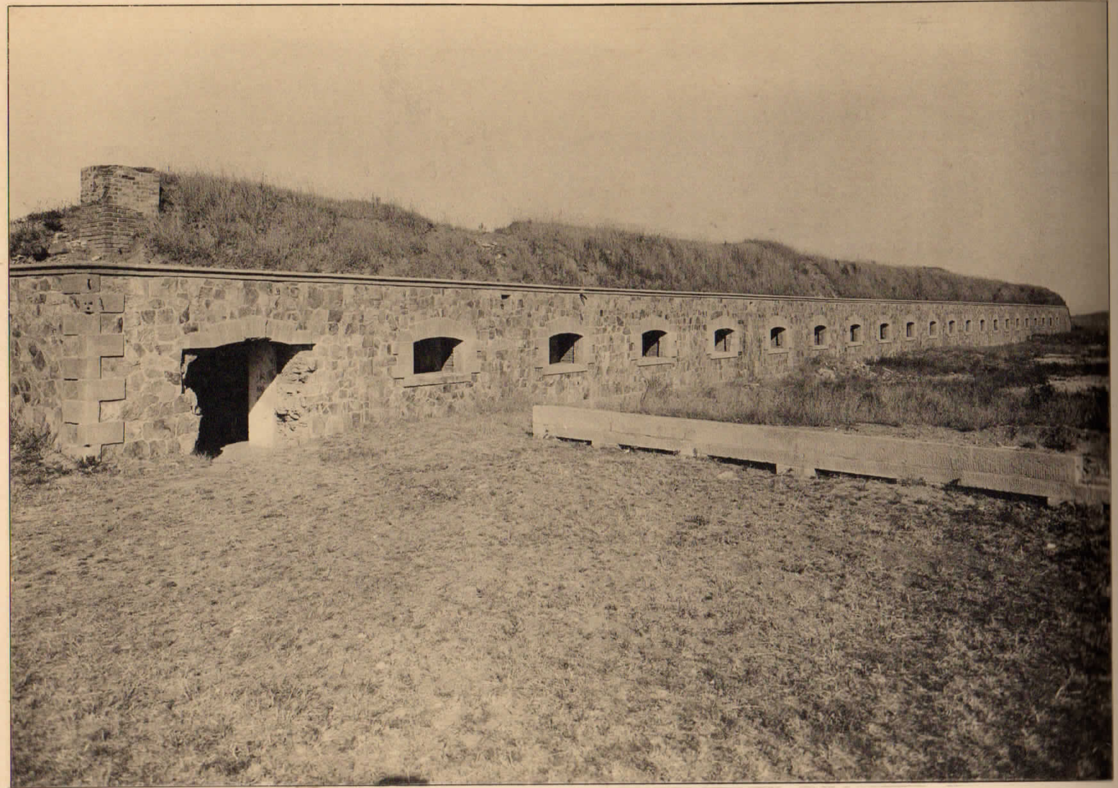
松樹二龍の天嶮と共に旅順の致命となし我が攻圍軍に對しては善戰克く抗せしと雖も我が忠勇なる義鬼に敵し難く遂に陷落の止むなきに至つた。圖は其の戰影を撮つたものである。

**大案子山堡壘（二）**

旅順港背面、露軍最後の防禦線で、其築城たるや實に驚嘆に値する。されども終に明治三十八年一月二日開城規約成立の際、椅子山と共に保證として、我軍の占領する所となる。

椅子山堡壘（一）

旅順背面要塞の中央部にある永久堡壘で、其構造の堅固なること驚くの外はない。
明治三十八年一月二日開城規約成立と共に保證として我軍の手に歸したものである。



椅子山堡壘（二）

露軍の永久堡壘として誇つたものゝ一つで、内部の構造は長さ數十メートル堅牢無比で、當時本堡壘の守兵は此内に營舍して頑强に抵抗し以て我が忠勇の士を苦しめたものである。

GENERAL STOSSEL AND HIS STAFFS.

露將ステッセルとその幕僚

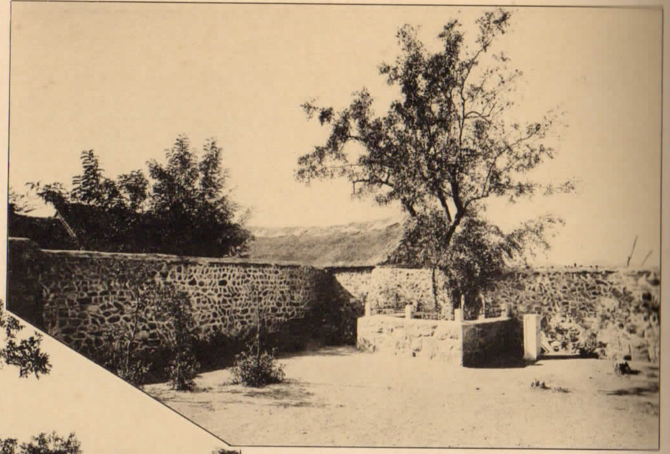
明治三十八年新年初頭旅順開城規約が成立したに就て一月五日ステッセル將軍は
乃木將軍と會見すべく幕僚を隨へ今方に水師營に入らんとする歴史的光景である。

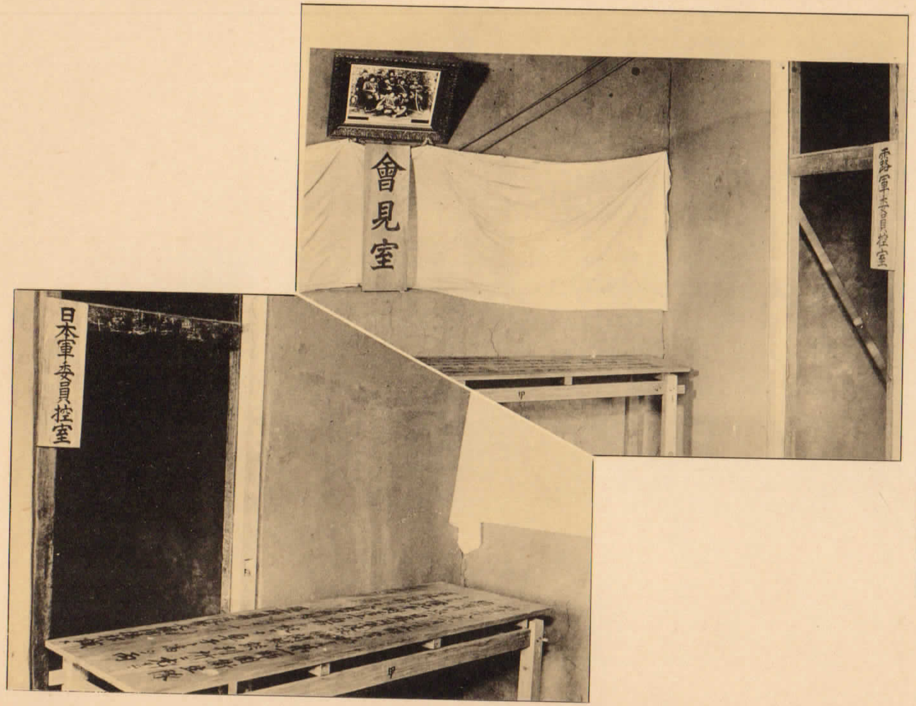
**水師營會見所（一）**

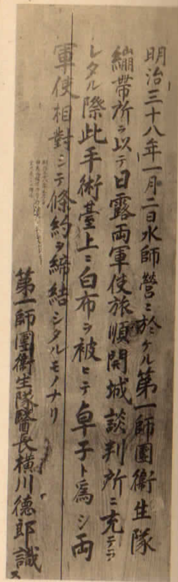
寫眞の建物は史上有名なる乃木、ステツセル兩將軍會見の場所である。向つて左の室は日本軍、右は露軍の控室に使用したものである。

**水師營會見所（二）**

砲煙彈雨附近一帶のはげしい激戰にたゞ一本取り殘された棗の木兩將軍會見の節ステツセル將軍より贈られし名馬を繫いださ云ふ有名な戰場插話を偲ぶ名木である。






**水師營會見室**

明治三十八年一月二日乃木、**ステッセル**両將軍が水師營に於て會見した歴史的情景である。右端の文字を書ける長方形は**テーブル**の表面を寫したものである。

**水師營會見記念**

明治三十八年一月五日乃木、**ステッセル**両將軍會見開城規約を議定した後記念の爲
両軍幕僚と共に撮影されたもので日露戰史否世界戰史上永遠に傳ふべき寫眞である。

〔35〕

火石嶺子海軍陸戰隊陣地

寫眞は火石嶺子海軍陸戰隊の陣地である。我海軍は精鋭なる十五珊加農砲をもつて軍艦、港口、工場等を猛射して屋火災を起し、以て敵の心膽を寒からしめたものである。

港口閉塞隊記念碑

我が海軍の勇士が死を決して旅順港口を封鎖したことは當時全世界の視聴を集め其の心膽を寒からしめた悲壯事であつた。寫眞中の船艦は我が聯合艦隊の碇泊である。

關東廳

我が租借地關東州の最高行政官署で廳舍は甚だ美觀をそなへてゐる。明治三十八年開城當時は此れに多數の負傷者を收容してゐたもので實に憶出深き建物である。

〔38〕

元關東軍司令部

昭和八年春まで關東軍司令部はこゝにあつて南滿洲に於ける帝國の權益守護の重任に當つてゐた。
建物は元露國關東軍司令部たりしもの、其結構の堂々たる流石に彼國の意圖の窺はれるものがある。

# 白玉山頂の美觀

圖は納骨祠の廣場より撮影したものである。山頂に登り眼下を瞰視すれば、獨靈、松樹、鷄冠諸山の遠望を始め、近くは港口、水道の佳景一眸の中に集まる。

新市街全景

此處は關東廳を始め中學師範工科大學等諸官署の所在地で、隨て官衙文武官の邸宅頗る多い。遙に列なる赭山は日露戰跡で点々として尚ほ彈痕を殘してゐる。

THE RYOJUN STATIONING REGIMENT
AND HEAVY ARTILLERY REGIMENT.

**歩兵聯隊**

我が國防極めて重要なる旅順警備の重責を荷ふ駐劄歩兵聯隊の正門である。

**重砲兵大隊**

帝國の國防上極めて重要なる旅順の要塞を守備する重砲兵大隊の正門である。

TAISHO PARK AND KORAKU-EN GARDEN IN NEW TOWN.

新市街後樂園と大正公園の櫻

後樂園は新市街大迫町に在る。露治時代の創設に係り、面積一萬余坪、亭樹其他總べて歐風好みで四時の遊步に適す。大正公園は新市街東北丘地に在り、大正四年の施設に成り、櫻花の名所として特に觀客を呼ぶ。

旅順博物館

左方に見える本館は大正五年から二ヶ年の日子を費して建てたるもので、滿州建築物中の異彩させられて居る。地は元露國陸軍將校集會所の跡で、右方に見えるは動物園。

## 旅順工科大學

旅順工科大學は、我が滿洲に於ける最高教育機關の一つであると同時に、我が國大學教育界に一異彩を放つてゐる。此建物は、もと露西亞海軍海兵團の跡である。

RYOJUN NORMAL SCHOOL AND RYOJUN
MIDDLE SCHOOL, RYOJUN GIRLS' HIGH SCHOOL.

**旅順中學校**

忠勇の士が屍と血とを以て贖ひし地に建てられた
る校舍丈けに教育施設上一種特異の精神が流れて
ゐる。校舍はツインスン、アンペルス商會の跡である。

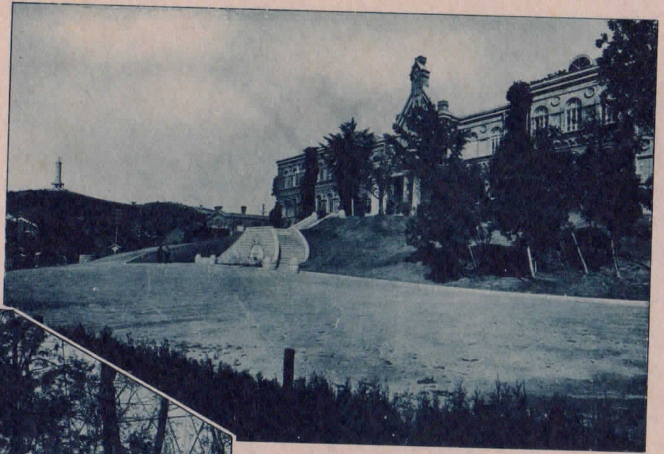
**旅順高等女學校**

旅順に於ける邦人女子中等の教育機關であるが、その宏壯典
麗なる建物は元露西亞の市役所であつたものである。

**旅順高等公學校**

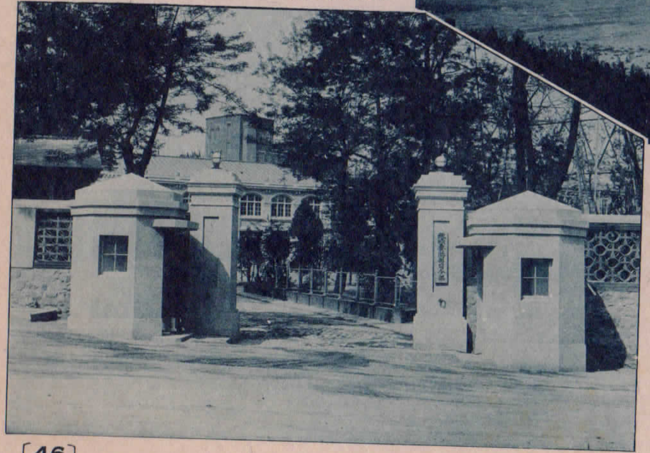
關東廳に於て經營にかゝり、滿洲國人に對し師範教育、中等
教育及初等教育を施す學校である。建物は元獨乙人の商館で
あつたものである。

RYOJUN CIVIL ADMINISTRATION OFFICE
AND HEADQUARTERS OF RYOJUN NAVAL STATION.



**旅順海軍要港部司令部**

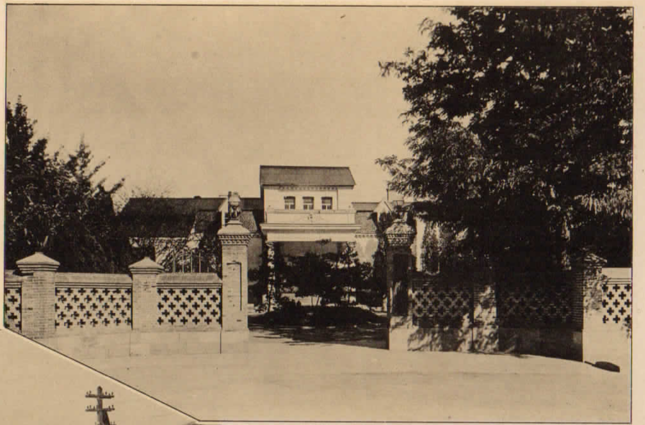
元露將アレキシエフの官舍であつたもの、
開城後旅順鎭守府となり、要港部司令部となり、
更に最近まで市役所であつたが、
今回改築されて再び要港部司令部が占めることゝなつた。



**旅順民政署**

遙かに白玉山と相對峙する高臺にあり。露西亞帝國管
領時代には此の建物は市立小學校であつた。

RYOJUN MILITARY CLUB AND MATSUMURA-CHO STREET.

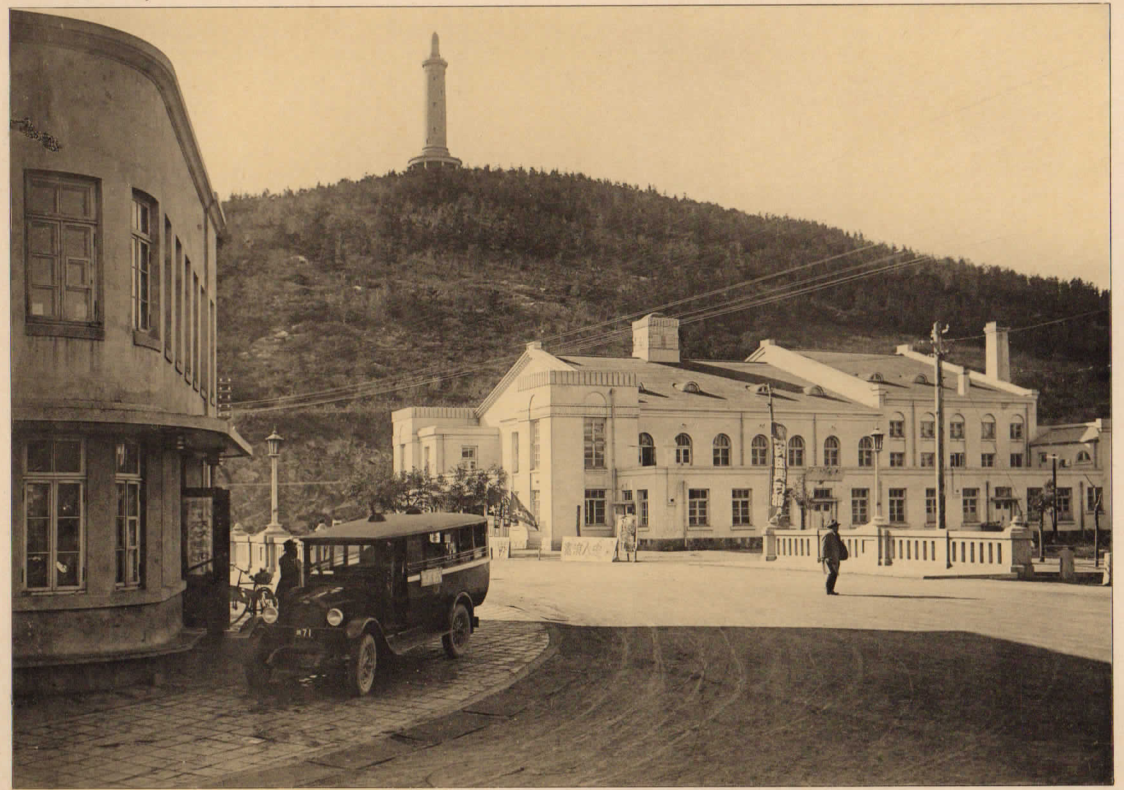


**松村町通り**

新市街の建物は露人の遺物が多い。前は西港に面し四境甚だ閑静である。松村町通は其の代表的一街路である。

**旅順偕行社**

露國時代陸軍將校集會所たりしものにて、現在にても旅順に於ける帝國陸軍將校團の俱樂部である。



〔48〕

旅順公會堂

白玉山下に聳立する二つの白堊館、正面は公會堂で、旅順在住者の文化向上の爲大に利用せられてゐる。美しき開運橋の手前左方に見ゆるのは滿電である。

AOBA-CHO STREET.

青葉町通り　舊市街の中心の位置な占め商業は最も殷盛、街景も亦近代的美觀な誇つてゐる。

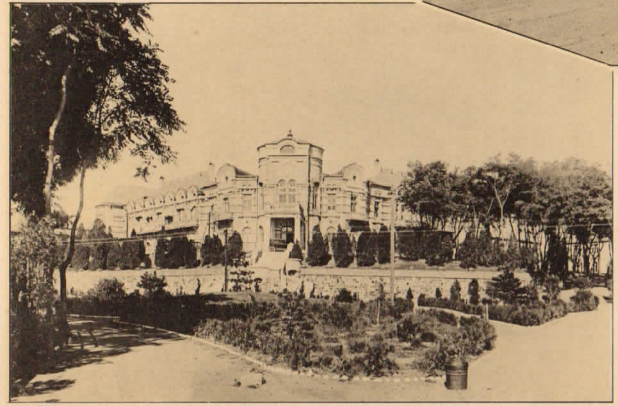
RYOJUN YAMATO-HOTEL AND
KWANTO GOVERNMENT HOSPITAL.

旅順大和ホテル

日華露國の住民は云はずもがな、今や歐州諸國の遊客綫るが如く商貨の輻轉日に月に盛である。圖の大和ホテルは其の建築の壯觀なると共に、懇切周到は他に比を見すと。

關東廳病院

我が關廳經營の東の病院であるが、元は露西亞の赤十字病院に充てた建物であつた。今や其の壯麗なる建築と文化的施設とを以て完備を誇つて居る。



〔51〕

露國戰死者墓地

明治三十七八年役に於て露國幾萬の戰歿者の英靈を祀れる忠魂碑で正面には、『旅順防禦戰の露國殉難烈士の遺骸茲に安眠す千九百七年日本政府此碑を建立す』と、ある。

THE FRONT STREET OF THE RYOJUN STATION.

旅順驛前の景觀

旅順は露の全盛時代に巨億の財を投じて建設した理想的都市で、現在では世界の名蹟、而も江山の勝に富むを以て、四季の遊客織るが如く、其玄關たる旅順驛は常に雑沓を極めてゐる。

昭和九年一月十日印刷
昭和九年一月二十日發行

編纂
發行　旅順市青葉町
山縣文英堂書店

印刷
製本　和歌山市小松原通一丁目五
大正寫眞工藝所